

高齢者重度脊柱側弯症の 症例報告

公益社団法人 長野県柔道整復師会

原接骨院 原 隆

【 目 的 】

本学会において、昨年までは思春期特発性側弯症について症例報告をしたが、今回は平成28年5月9日、腰背部痛のため整形外科を受診し脊柱側弯症と診断、当院を紹介され来院した高齢者の症例について報告する。

【 対 象 】

KM : 68歳 女性 初検、平成28年6月5日

Th12~L3 Cobb角41度

円背 自覚症状として腰背部痛有り

【 方 法 】

1. 体操療法：体幹筋の伸展とともに筋力強化と、左右のバランスの調整を目的に毎日継続。
2. RHP I 療法：実用新案取得の側弯症矯正具を使用し彎曲を矯正。（2週間後あとは月に1回程度）
3. 立位背面での外見所見と2回のX P検査について医師の診断によるCobb角を比較し、経過を観察。

【体操療法について】

鍛練運動

入浴、夕食前に行う

11 足あげ腹筋 50回



12 両手足運動 50回



13 背筋伸ばし運動 20回



14 背筋、10秒を10回



正しい正座



基本運動

特に、就寝前に行うとよい

6 膝を立て、左右に倒す。50~100回



7 足を伸ばして左右に振る 50回



8 足を伸ばして上げ下げする 50~100回



9 足を伸ばして開いたり閉じたりする。50~100回



10 自転車こぎ。前後合わせて 50~100回



1 腰伸ばし、ヒザ抱え運動を 50~100回



2 腰伸ばしを10分間



3 1をする



4 正座の姿勢から、仰向けになる。5~7分間



5 再び1をする



【RHP I 療法について】

側弯症矯正具



■側弯症矯正具の**使用前**
腰椎Cobb角約**40°**

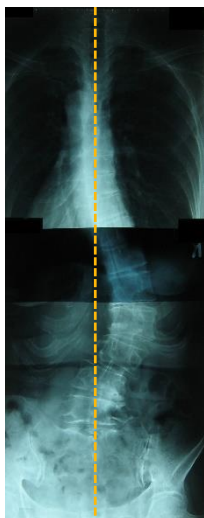
■側弯症矯正具の**使用時**
腰椎Cobb角約**30°**

【結果】

【初診時】



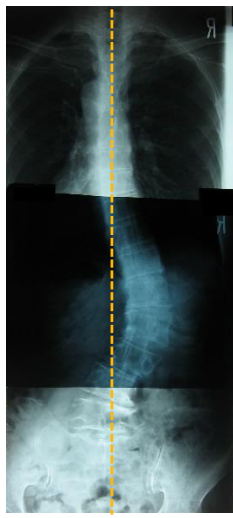
H28. 5/9
Cobb角41°



【再診時】



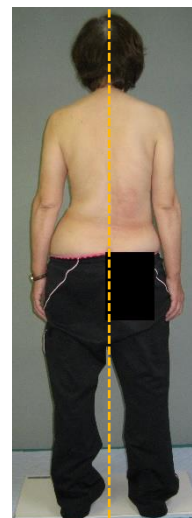
H28. 7/8
Cobb角38°



【初検前】



H28. 6/5



【2回後】



H28. 6/20



【3回後】



H28. 7/8



【4回後】



H28. 8/9



【 考 察 1 】

1. 高齢者で筋力が低下しているにも関わらず変化が認められたのは、患者自身の「改善したい」という強い意志とともに、体操後に改善の変化を感じられたことから、無理なく継続できる体操療法であったと思われる。

2. RHPI療法では体幹を伸展させ彎曲部を矯正させるが、その状態を維持させるための体操療法との相乗効果もあり、短期間でも変化が現われたと推察する。

【 考 察 2 】

3. 今回の症例では、初検時Cobb角40度以上という重度でもあるため、彎曲が戻る可能性も考えられることや、今後も患者自身が体操療法等の治療を継続できるかどうかは確証できないため、以後も医接連携を大切に経過を観察し評価を行うべきと考える。

【 結 語 】

1. 一症例のため判定は難しいが、高齢者の脊柱側弯症でも改善の可能性が示唆された。
2. 今後も医接連携しながら新たな症例も検証し、エビデンスを追及することが重要である。
3. 思春期側弯症と同様に成年期以降も早期発見が重要と考え、今後も専門医にご理解ご協力を頂き、重症化予防の取り組みも努力する。



ご清聴ありがとうございました